

PAM通信 コラム

2007年11月発行

〈第8回〉M君の話（その2：弱者の存在理由）

前回のコラムでは、M君の幸せについて考えてみました。今回のコラムではM君や障害を持つ人など、弱者と呼ばれる人の存在理由について考えてみたいと思います。

M君のように優しいけれど弱い人の存在にはどんな意味があるのでしょうか？弱者は強者に搾取されるための存在なののでしょうか？または、弱者は強者のお荷物的な、本来はいいない方がよい存在なののでしょうか？

歴史的な長い時間単位で考えると弱者と強者の関係は相対的です。どちらが強く、どちらが弱いとの関係はしばしば入れ替わります。広い意味での強者とは環境（自然環境や社会環境）に適応して（合って）いる存在のことなので、環境が変われば強者ではなくなります。例えば、古代では力が強く狩の上手い人が強者であったでしょう。しかし現代では知識が豊富で賢く立ち回れる人が強者であると考えられます。現代の日本では学校で良い成績を修めることが出世の近道になることから、力を持つ者よりも知識を持つ者が強者であると言えるでしょう。しかし将来、学習技術が発達して脳にダイレクトに知識を入力できる時代が来たとなると、誰もが簡単に知識を得られることから他者の気持を察することが上手いM君のような人が強者になるのかもしれませんが。

それでは環境が変わるとどうなるのでしょうか？環境に適応している強者だけの集団は全員が弱者になり絶滅してしまう可能性があります。そこで、その集団の絶滅を避けるために、現在の環境には適応していない代わりに、変化した環境に適応する可能性を持った弱者が集団中に存在することが重要になります。つまり、弱者は将来の環境変化に備えるための大切な役割を担っているのです。以上が私の考える弱者の存在理由です。M君は私にとって大切な存在であるとともに人類にとっても大切な存在であると私は考えています。

とはいえ、長い時間単位で強者と弱者が相対的な存在であっても、短い時間単位では弱者は強者に負けて数を減らし、いずれはいなくなってしまうはずですが、しかし、そうはならない仕組みである「助け合いのシステム（前回も少し触れました）」が存在しています。この助け合いのシステムについては次回のコラムでもう一度考えてみたいと思います。